

第6回：

開催日時： 令和8年3月3日（火） 午前9時31分～午前11時30分

出席委員： 三上委員長、北浦副委員長、卯目、北島、南、野沢、
関山各委員、室谷議長

1. 専門グループ視察報告（放課後児童クラブ）

南委員らより、加賀市の「おやこハグネット」の視察報告が行われた。同施設が放課後児童クラブを単なる「安全な預かり」ではなく「地域で子供を育てる教育の場」と定義し、ソーシャルスキルの獲得や指導員の処遇改善、4年生以降の地域への自立を促す姿勢が共有された。あわら市の現状との比較から、地域連携や民間活用の在り方について活発な議論が交わされた。

2. 高齢者行政ヒアリングと全世代型健康戦略

健康長寿課より、高齢者の実情と今後の対応策について聞き取りを行った。介護人材の深刻な不足や核家族化に伴う在宅介護の限界、男性高齢者の孤立といった課題に対し、健康寿命を延伸し高齢者が「支え手」となる重要性が改めて強調された。また、子供と高齢者が緩やかに交流する「場の重ね合わせ」によるコミュニティ再生の必要性も提起された。

3. 委員会レポート案の提示と活動方針の整理

三上委員長より、これまでの全議論と調査結果を体系化した「人口減少対策レポート（案）」のフォーマットが提示された。本レポートは議事録、課題分析、施策提言、ロードマップ、広報物等を含む「見える化」された成果物を目指す。今後は行政ヒアリングを完了させ、データを基にした深い考察と重点施策の特定を行う段階へと移行する方針を確認した。

人口減少対策特別委員会（要点筆記）

令和8年3月3日（火）

午前9時31分から午前11時30分

議員 三上委員長、北浦副委員長、卯目、北島、南、野沢、関山、中垣内、室谷議長

欠席 なし

遅刻 なし

傍聴 なし

事務局 東局長、吉田補佐

○ 協議事項

（1）高齢者に関する行政について

（2）その他

○ 協議事項

（1）高齢者に関する行政について

三上委員長 グループ報告を各自お願いする。

北浦委員 およこハグネットという一般社団法人が、石川県加賀市の山代温泉のところにある。ここが放課後児童クラブを市の方から受けてやってる。この事業所では10ヶ所の放課後児童クラブを運営している。子供は日曜、夏休みなんかも含めて400人ぐらいいる。僕らが行ったのは、そのうちの第3代ツチというところで、第1第2第3とかずっとありまして、それと同じ加賀市の動橋とか南郷とかで10ヶ所運営している。第3代ツチのところに事務所もある。理事長さんからいろいろ話を聞きました。まず子供さんたちが学校終わって児童クラブで来るんですけど、そこは山代幼稚園の園舎やったところで、2階建ての建物だった。子供たちが帰ってきたらみんなベルを押して入ってくるとのことだった。もちろん児童クラブ終わったときにはみんな親御さんが迎えに来てうちへ帰るところだった。教室なんかも回らせていただきましたけども、昔の幼稚園ということで2階建ての立派な建物だった。そこでは、3歳ぐらいから小学校低学年ぐらいまでの子供たちが主にいたところだったんですけども、指導員の方もきちっとついておられて、帰ってきて宿題している子が多かったなと思います。指導員の方も3人おられて、シルバーの方がやっているということではなく、雇用保険や社会保険にも入って勤めている方で手当的にもかなりよくて時給1500円とか、1300円という最低賃金よりももちろん多い金額で来ていただいたようなことで待遇的にも恵まれている。そのように処遇されている支援員で、年齢的にも見

た感じでは 30 代から 40 代前半ぐらいの方が主に支援をされているところでした。近くに山代小学校があり、小学校の今使っていない教室を活用したところがいわゆるジュニアクラブというのがある。ジュニアクラブっていうのは高学年 4 年生の子供たちがそこへ行くようになっているということでした。小学校と併設というところなんかは、空いている教室を使わせてもらい、玄関も代っチの方の玄関から入ってくるが、体育館があって、その体育館は小学校と共同で使ってるみたいな感じです。体育館も空いていればいつでも使ってもいいよっていうことで、クラブも使っている。規模的にも大きくて、僕らはじめは温泉場ということで芦原小学校のような感覚で行ったんですけども、非常に生徒数も多くて、校舎、体育館も二つあるような感じで施設的にも恵まれてるなというところでした。一般社団法人の方では他にもやってるところもあるし、自分たちの一般社団法人以外でも、加賀市の方で運営してるところがあるんだということだった。このような形で他のところも運営されてるんですかって聞いたから、他のところの放課後児童クラブ、学童クラブがどういうふうに運営されているかということは細かいことはわからないんですけど、ことをおっしゃってました。加賀市内の学童クラブがどんな形で運営されているかどうかということは、確認出来なかった。ただこの中で、子供を育てる組織っていうのがあって、今の一般社団法人ハグネットが事務局的なことをやっておられるんですけども、この中では山代温泉のまち作りの団体の中で保護司さんや民生委員さんといった方も加わってるし学校関係者、行政の方、子供課、子育て支援課、それから専門機関として児童家庭センターといったところや、あと保育関係者、法人の保育園、公立の保育園、子育ての団体といった団体が集まって定期的に情報交換をしているというような組織、いわゆる子供を育てる組織としてやっているというふうなところでした。

中垣内委員

私は途中から参加させていただいたので、説明は聞けなかったが、見せていただいた雰囲気といいますか姿勢、やっぱり施設が大きい体育館があって時間は決まっているんですけども自由に遊べる、ボール遊びなどもできるとか一輪車とかそういう遊具もちゃんと揃っている。そういった環境が整っているなっていう感じはしました。帰ってきた子供たちが先生に対してすごくなんか壁がないというか。ただいま、おかえりって言って、雰囲気もとてもいいような印象を受けました。

南委員

加賀の児童クラブが進んでるっていうことを聞いて、実際行ってみて、全然考え方が違うんです。学校から帰って、あわらで言うと預かりっていう、安全にっていうのを主眼に置いてるんですが、ここの考え方は、地域で子供を育てる、教育力がないところでは、ここで預かった以上は、山代の子をいい人間として育つようにソーシャルスキルを 3 年生までに教えていきたいといっていた。教育ではないと言いましたが、ともに育つの共育をしっかりやるんだという意気込み、決心が感じられて、支援員はあまり多くないんですが、1 人 1 人に勝手にさせはしない、山代の子をいい人に育てるための場であるという、統一した一つのベクトルがありまして、それを徹底してや

っぱ支援員には伝えてあるといていた。だから支援員に対しての待遇、雇用保険に関することあるいは期末手当に対することもしっかりと、手厚くするというような感じで、その姿勢が違っていた。子供が入ってきた現場を見ても、芦原や金津の子供クラブの雰囲気とは違う。まず帰ってきておかえりなさいと温かく迎えられて、すぐ机に付いている。その雰囲気からスタートして、次に礼儀というか、根本的に家庭でやってないようなそういう躰っていうような、そういうところを3年生までにするんだと言っていた。もう一つすごいのは、4年生になったら、児童クラブは卒業してもらっていいと、地域で仲間と遊びなさいとしている。地域で自分らで放課後を過ごす、ここに引き留めるようなことはしないんだという姿勢です。ジュニアっていうのは比較的減っている。そのように地域に戻して自分たちでやるようにするので、3年生までにソーシャルスキルを身に付けるという、そういう考え方のもとでやってるので実際に役場のこども支援課が管轄してるんですけどもその人たちにもお話を聞きたいなっていう気持ちがある。今度芦原の子どもクラブにも話を聞く機会があるんですけどもどういう考え方でやってるのかっていうのもちょっと比較したいなと。それをもとに、ここに報告をしたいなと思ってます。

委員長 何か聞きたいこととかあるか。ちょっと一点僕の方からは、今非常に興味深いなと思って聞いてたが、例えばソーシャルスキルの獲得みたいな話は事業者が、ある意味善意でやってるのか、それともその市としての方針がそもそも存在するのかはお聞きになったか。

南委員 代表者が立ち上げて市がそれをサポートしているのでその考え方だと思う。代表の人が作ったときの考え方だと感じた。

北浦委員 先ほど申し上げたが、他のところでやっている学童がどういう内容なのか、わからないっていうようなこともおっしゃってた。そこはやっぱり市がどういう考え方でやってるかっていうのをまた確認しないとわからない。

委員長 承知しました。

卯日委員 例えばあわら市なら、きっとそのシーンは指導して、こういうふうにやってくださいっていうのがあると思うんですね。ここは会社みたいな形なんですか。そうすると他のところにも全部同じような考え方が行き渡ると思うんですけど、例えばあわら市が直接やるっていうことは、やっぱりいろんな場所によって考え方とかも違うと思う。私もはっきり言えないけど、帰ってきたら、とにかく預かる。勉強とかではなく、安全に預かるっていうのが、一般的ではないかなと思うんですね。だからこういうところは特殊やし、こういう考え方はすごくいいのもわかる。それをどうやってあわら市にフィードバックするかということかなと思う。

南委員 預かるというのが一般だと思うが、預かり育てるとともに、人として成長するのを手助けするという、そんなのが肌感ですごくいいなと思った。僕は最初に行ったところは第3代っちで、小学校のところに行ったら第1代っち、第4代っち、ジュニア

と4つあった。何で3がないのかというと、まず1番2番ができて、人数が増えてきたので3は幼稚園のところにしたと。さらにまだ人数が増えたので第4を小学校のところを作ったという。その人口がすごく増えて、今多分370人ぐらいだと思うんですけど、それくらいになっている。ただ、加賀市の山代の人口は増えてない。その子供クラブの人数はすごく増えているっていう現状でした。残念ながら人口が増えてないんですっていうのは理事長が言ってました。また詳しく報告します

北浦委員

児童クラブに入ると、地域との繋がりがなくなるっていうことが一つ懸念点だったけど、ある程度高学年になってくると、自分の友達ともっと遊びたいとか、家の前で遊びたいとか、したいことが出てくるので、そういう子はジュニアクラブを卒業していけばいい、そこは束縛しないっていう考えのもとジュニアクラブに来てるんですけど言っていた。だから学童クラブで抱え込むんじゃなく、ある程度の歳になったら自分ももっと友達と遊びたいなという考えが出てくるので、そういうところは生かしてあげるように、地域との繋がりも考えてやってるっていうことだ。それと定期的に地域の人たちが来て、学童クラブの中で例えば手品を見せてくれたり、いろんなものを作ってくれたりとかしてるっていうこともやってる。非常にそういうことでは地域との繋がりも大事にしてるんだなと感じた。

委員長

非常に大事な視点だと思うので、ぜひまた比較として、芦原クラブも見ていただけたらとのことなので、そのときには間に合うと思う。では次回お願いします。

関山委員

ちょっと教えてほしい。利用料がネットで調べたら8000円から1万5000円ぐらいでして、多子世代には補助が出るというところがあるが、このクラブによって違うみたいな補助額がその場合、どれぐらいなのか、が一点と、あともう一点がハード面だが、子供何人に対して何平米とか、もし教えてもらってる情報あったら共有していただけたら嬉しいと思う。

南委員

市の補助はないと思う。月8,500円である。生活が苦しい方の補助はあると思う。夏休みは1万4000円である。夏休みだけ預かる場合は、2万1千円。ただ夏休みのメニューが全然違う。例えば鯖江の青年の家へ連れていったり、若狭湾少年自然の家へ行ったり、遠足やバーベキューとかもあったり、自然体験的なことをしてくれる。どれだけ教材を買っても8500円の中で収める。他の加賀のクラブはわからないって言ってたんですが、市民から預かりだけの子供クラブと、こっちのような子どもクラブだったら、やっぱり不平が出ると思う。それがないということは、ほぼ同じようなことができていないのではないかと推測はしたが、その辺はわからない。

委員長

少し気になったのは、そもそも芦原の放課後子供クラブは4000円ぐらいだった。だから、そもそも市の事業の話である。今回の加賀もそうであれば、市民負担がどれだけという話なのである。市は必ずお金出してるはずなので、その辺が全体としてどうなっているのか、例えばそれがどこも加賀市において8000円ならば、多分一緒なはずである。もしくはそのメニューを変えているかみたいな話だと思うので、その

辺の制度面を深掘りしていただけると委員会なので良いと思う。民間学童に近づいて
るはずである。8000円となると民間学童は1万を超えるぐらいだと思う。なのでちょ
っとその辺の住み分けとかも含めて気になる。気になる。

南委員 加賀市に聞いてこないといけない。

委員長 他のグループは報告ないか。

健康長寿課からの説明願う。

村中課長 資料「あわら市の高齢者の実情」を説明。

野沢委員 質問だが、認知症を抱えている家族の一番の困りごとの部分というのはどういうこ
とを訴えてくることが多いのか、教えてください。

村中課長 最近あった相談だと、体は元気なので、ぱっと見はわからないというところでご家
族がすごく大変な思いをされていることをなかなか理解してもらえないという相談を
いただいて、介護者の方が家族のとき、同居してる人はわかりますが、例えばちょっ
と訪ねてきた親戚の方とか、近所の方にわかっていただくのが難しいというような相
談が入ったりする。あとは本人さんに、例えば運転免許を返納して、運転やめてほし
いと言ってもなかなか自身で認知症ってことも理解できてないので、難しいというよ
うな相談をいただくことも結構機会としては多いと思っております。

北島委員 食欲が増す。

村中課長 認知症になると食べたことを忘れてしまって食べる機会が増えるということで、冷
蔵庫に鍵をかけたりとか。調味料とかもわからず食べてしまったりする場合もあるの
で、入れないようにしたりとかってなんかすごく難しい対応を迫られるうちもありま
す。

北浦委員 この健康寿命等の障害期間っていうのは初めにご説明あったんですけど、障害って
いうのは例えば介護が付いたら障害として見ているのか。病院行って足の骨を折った
から障害と見てるのか、この定義は何かちょっと教えてもらいたい。

大久保補佐 基準みたいなのって難しいんですけど、介護度がついたからというわけではなくっ
て介護の手が必要になったとか、そういったものにはなると思う。この基準をどのよ
うに調査しているかとかまではちょっと我々も存じ上げてない。議員さんおっしゃる
ようにもしかすると介護認定の調査等の中から、数字を拾い上げてるものかもしれま
せんが、実際はその介護の手がかかるっていうのがその障害期間になるのかなと思
う。認知症であっても、認知症の方に少し声をかけることでも、介護の手にはなっ
てくるのでその辺のところ難しい。

北浦委員 健康寿命っていうのは、どういう基準なのかも一緒に教えてほしい。これで見
てる判断基準だけでいいです。

村中課長 県の統計なので、正直基準がどこにあるのかはわからず取ってきたものを紹介し
ている。資料の説明というか、統計のところまで調べてみた感じだと障害期間というの
はつまり、病気などで体が十分に動かないなどの状態を総称して言っているみたいで

す。健康っていうのは、完全な健康体っていうわけではないけれども、寝たきりとか、何か動かない期間ではないところを指してるみたいな定義で捉えているようです。

北浦委員

考え方として健康っていうのは、自分で自分のことができる、それからこの障害期間というのは自分のことを自分でできなくなった期間とか、何かそんなことを意味してるっていうふうに考えればよろしいんですか。（はい）

南委員

認知症を抱えると、なかなか人に助けてっていうのが求められない。どうしていいかわからないっていうところがあって、今、野沢さんいましたけれども悩みっていうのは、1人1人全然違ってきて、平気でサララップを冷蔵庫に入れたり、お金を取ったとか、そういうことも平気で言うので。僕もサポーターのなんかとらせてもらったんですけども、なかなか浸透するのは難しいなっていうのはいつも感じている。広域連合でケアマネージャーとかケア会議っていうのをやってると思うんですが、あわら市でもこういう独自のやってるっていうのは、初めて知って、ケアマネージャー集めたりしてするんですよね。（はい）

野沢委員

高齢者数が上がっていくっていうのが目に見えていますっていう中で、今後介護する人が少なくなるのかわかってるとか、場所が足りないとか、何かそういうような傾向っていうのは見えてきてるんでしょうか？

村中課長

支える側が少なくなっていることで、介護人材の奪い合いみたいな形にはなっております。どこも人不足ですしやはり若い方はしんどい介護の仕事よりは、もっと簡単な仕事に転職される方もたくさんいますので介護人材不足っていうところは見えてきております。あと、介護の担い手不足って言いますと、今在宅で介護される方の世代には現役で働いている方が大変多いので、在宅の介護力というものも核家族になってきているので、少なくなっているっていう状況があると思います。介護が必要になったけれども家でも見る人がいないので、どこか預かってくれるところがないかという相談もたくさんいただきますので、やはり在宅で介護、家で見れて家で死ぬのが一番いいのかもしれないんですが、それを支えるだけのご家族の中の力というか、少子高齢化の中でいうと出産年齢も上がってきていますので、出産した年齢の方がもうすぐ介護を担わなきゃいけないくて、ダブルケアになってしまうっていうようなことも実際はあるように感じます。

北島委員

要は人材不足なので、ショートやデイを減らして施設型にしてきてるがもう置いておくところがない。

委員長

トータルで人がいないので、どこに回そうが、人がいないからどうするのっていう状態になりつつあるってことですよね。お金出せばいいのかというと、お金出すところですら人材がいらない状態になってきてるっていうことですよね。（はい）

北島委員 さっきの表で核家族化が、ありえんぐらい増えてる。その辺もとっくの昔に止めてないといけなかった。せめて 50m 以内に住んでくれるとか。好きなどころに行けっという状態にしたのでこんなことになってる。

委員長 せめてケアが行き届くようなところにしておかないとということですね。それは健康なときはわからない。好き放題やって結果そうなるみたいなことがあるってことである。

北浦委員 近所の方で息子さんが 60 歳近くになって、お母さんがデイに今通ってるけど、迎えに来るまでにその準備しないと駄目だし、帰ってきたら迎えないと駄目だし、地域のいろんな会議とかあってもやっぱり先に帰るとかある。多分、デイサービスは使っていると思うけども、他に何かその支援の道っていうのはあるのか。デイサービス使ってるので介護保険はもちろん入ってると思うが、それに伴うようなプラスアルファの何かサービスっていうか、在宅なら在宅でとかでなにかあるか。

北島委員 老人が増えてきて在宅の方に仕向けている。基本はないと思う

大久保補佐 介護認定がついてる方なので専門職の方が見なければいけない状態にどうしてもなっている。そうすると、我々がやっている地域での介護の教室、例えばサロンであったりとか教室であったりとかに来ていただいて、その地域の方がその方を見れるかっていうと、なかなか難しい状態ってなってくれば、やはり介護の世話になるしかないってところですよ。介護サービスを使うってなってきたら、やっぱり地域の在宅でということだとデイサービスかショートステイかっていうところに限られてきてしまうのが現状だと思います。そこで必要なのが専門職の人材不足というところで課題が大きいかなとは思っています。

南委員 デイサービスに行かすのって大変なんです。訪問看護っていうのは、あるんです。芦原の施設でも訪問看護ってすごく少なくなってきてて坂井市の方ではしてるんですが、人材が少なく、週に 1 回、やっと来てくれる。デイサービスがいやってなると、それしか頼るところがなくて。どんどん訪問看護がなくなっていくんですけども、そういう状況があって。最近の高齢者って認知が絡んで、デイサービス行くのが一苦勞で、送り出して帰ってきてからも、ひと暴れしてっていうのがあって、もうどの世帯もこれは大変なときになってるなど。そこで民生委員、社協の役割っていうのがすごく大事になってくると思っていて、地域連携コーディネーターとかいますよね。ああいう人たちの活躍っていうのがこれから地域に入っていったのようになっていくかっていうのを行政と考えていかないと大変なときを迎えているんだらうなっていうのは感じてます。

中垣内委員 生活保護を受けてらっしゃる高齢者の方が増えているとか。そういう方たちはお金がなくてそういうサポートが受けられないとかそういうことはないんですか。

村中課長 困窮している場合に生活保護を受けられた場合でも、介護扶助がありますので必要なサービスは受けられます。その人に必要なサービスが入ることに関しては大丈夫で

す。生活保護に行く手前の方の介護サービスを受ける場合に、お金がないとご心配かもしれないんですが、いろいろな減免制度があるのでそういった減免制度を使っただいて、低所得でもサービスが必要という場合には、サービスを使うことができます。

委員長 何がボトルネックなのかというのはすごく重要な議論だと思っていて、制度的に言うとお金はボトルネックになってなさそうである。一方でインフラに関しても、高齢者は横ばいか減っていく時期に来てるって話なので、別に施設が足りないってことも多分そこまでないに近いのかなと思う。そうすると、誰がどうケアするのかみたいなところが、ボトルネックになりつつあるのかなってことです。そうするとやはり外国人の話とかにも直接接続されるだろうし、外国人か自動化みたいなことになるのではないか。人を増やさず、効率化するかみたいなその二つの論点、もしくはすごい付加価値。要は給料がすごく高いみたいなことになるかの三つぐらいしかないのかなって感じがする。ちなみに現場ではどうかってあたりしますか。

村中課長 誰が担うのかの部分で言いますと、健康寿命を延ばす話にも繋がるんですが、現役を引退された方で体が動く高齢者が担い手の中に入ってもらえるケースは大変増えていきます。生きがいを持ってそこで働いて、自分のライフプランに合わせた形で介護側の担い手になっているケースが増えてきていますので、そういった方を増やす、担い手に回ってもらえる高齢者を増やすことは大事な視点だなとは思っております。

北島委員 老老看護は難しい。

卯目委員 担い手のことを言えば、年いっててもちょっとお手伝いできるという、一緒にやっていくってことってかなり大事だと思うんですね。私ぐらいの年の人は結構たくさんいると思う。今の若い人たちよりも人数的には多いので、それを宣伝する、助けてくださいっていうのもっと言うことだったらできるかもしれない。今までは介護の人たちがしてあげるって感じだったのが、一緒にやっていくという感じ。外国人の方にも頼らなあかんやろうし、近くにいる人でちょっと働ける場所っていうのがあれば、いいかなと思うんですけど、そのためにはわかってもらえないと思うんですけどね。

大久保補佐 実際なんですけど、介護サポーターとか。あとフレイルサポーターとか、認知症サポーターはちょっと毛色が違うんですけど、そういったサポーターという名前のつくものをやっていたらいる方がいる。先日も社協の方で福祉塾が開かれて、その福祉塾を受けていただいた方の中で、介護サポーターさんに登録しませんかっていうふうに声を掛けさせていただいた。介護サポーターって何するのっていうと一人暮らしの身寄りのない方やちょっと寂しい方とか、ちょっとした声かけが必要な方、例えば電球替えとか、環境整備を少し整えてあげるだとか、そのぐらいだと特に専門職じゃなくてもできるよねっていうところで、介護サポーターさんをとにかく増やしていこうという取り組みを今してまして、そういったところが入ることによって、担い手

さん、年齢層でいうと60代以降の方が多いかんと思っていますんですけど、そういった取り組みであったり、あとフレイルサポーターなんかでも、60代から一番高齢の人ですと84歳とか85歳とかの人までやっていただいています。その方の言葉を借りるのであれば、僕がフレイル状態だったのにフレイルサポーターになったらフレイルを脱したんだよみたいなことを言っていた。フレイルチェックって、職員がするのではなく、サポーターの方が前に出てお話して、チェックもして、全てやってるんですけど本当に上手にやって、説明をしてくださる。ご自身のフレイル予防にもなるというところで、お声掛けさせてもらう。このフレイルサポーターは毎年養成するのって時々言われることがあるんですけど、どんどん増やしていきたいので養成していますって声掛けしながら、広めていってるような現状ではいます。ただもっと広げていきたいので、卯目議員がおっしゃるように、普及啓発というところはもうこれからも進めていきたいと考えています。

北浦委員 今の関連で、支援を受けたい人とやりたいって人とのマッチングは、どこで受付してるのか。

大久保補佐 介護サポーターにつきましては、社協に委託事業としてお願いしていますので、その中で面談をしながら、ご本人さんの面談と介護サポーターさんの登録の管理自体は社協が行っていますので、合わせてマッチングしています。

北浦委員 民生委員さんを通じてやるのか。

大久保補佐 社協でも市でもどちらでも使いたい申請はある。使うメニューについては、ケアマネさんからご相談があったり、地域の民生委員から相談があったりするんで、申請されるお年寄りの方をこちらで確認して、登録されてる介護サポーターとのマッチングすることになります。

北島委員 団塊世代が今だんだん介護度が上がっていく。健康寿命を伸ばそうっていう考え方を持つてるわけだが、やってこうとすると、小さなサロンをみんながやっていかないとだめだ。それができてるのが古町で、しょっちゅうサロンやってる。輪投げしたりお茶会したり、フレイルサポーター呼んで講演してもらったり、常にしている。川北の方には集まる場所がない。

委員長 古町ではできてるけど、他のところではないということか。

北島委員 川北は区民館みたいなものがない。だから集まる場所をうまく輪番制でもいいのでまわして、サロンをやっていくことが大事になってくるかなんと思っています。年寄りを集めて年寄り同士で話してもらわないと話が進まない。

南委員 向ヶ丘や坂ノ下は盛んにやっている。私が区長をしいたときに作った。福祉委員会っていうのは、まだ全部の区できてない。福祉委員会が中心になってやらないと、高齢者の世話は若い人ってできない。福祉委員会も60歳から65歳ぐらいの人が運営して、高齢者が高齢者を見るっていう制度しかないなと感じている。そこには民生委員を中心にした福祉委員会、区長ももちろん入ってもらって、地域生活コーデ

イナーターが社協から支援をするというようなシステムを作って、サロンをする。僕ら三つのサロンがあるんですが、僕らの区はそういうサロンを回していつている。ただ、本当に困ってる人っていうのはサロンに出てくれない。その人たちは民生委員や福祉と行政が一緒になって見回りを徹底的にしていく以外はないのかなと感じます。ただ介護人材はこれから若い人からとってこなきゃいけない。人材はそのときのPRなんです。高校にいたときに、製造業とかはいろいろな人がこういう職業は魅力あるよってやるんですけど、介護はあんまり魅力あるような発信ではない。広域連合でもっと人材が欲しいならもっと真髓をついたようなPRしないと高校生はいかない。製造業なんてすごくてパワーポイント作ってきて宣伝するんですよ。魅力があって行ってみようかなと思う。若い人材が看護と介護で不足しているので、取り方っていうのを徹底的に考えていかないといけないと感じています。

北島委員
北浦委員

看護はお金の面でいいが、介護はお金の面で駄目なのでなかなか集まらない。

さっきのサロンの話だけど、北潟東なんですけど、少し紹介させていただきますと北潟東と、富津が民生委員さんの管轄範囲が同じということで同じ福祉委員会を作って、北富福祉委員会って名前をつけてやってる。令和元年から月1回集まって毎週第3火曜日か第2火曜日に集まって、その日によってメニューが違うけど、今日は輪投げをする、来月は映画を見ましようとか。今度はフレイルサポーターの方に来ていただくとかそういうことやってまして、結構集まってくるのはやっぱり女の人が多いです。今まで来てなかったけど私も行こうかなってだんだん人が増えてきている状況なんで、これをしていると最近あの人出てこないねとかいう話になって、一度みんなで話しにいこうとか、そんなことにも繋がってる。確かにサロンっていうのは、出てきてもらうということでもまず安否確認になる。特に女性は、話をするだけで気分転換になるというようなことも話していた。社協が進めていることだが、サロンっていうのはいいなと思います。

北島委員

サロンに来てもらわないといけない。呼び込みをもっとやらないと決まった人しか行かない。

委員長

決まった人しか行かないというのが、課題のような気がする。

卯目委員

サロンは女の人は結構行くけど男の人っていうのが、なかなか入り込めない。麻雀したりとか、頭も使うし今は健康マージャンというのもあるので、男の人は男の人だけでやるようなそんなのもいいかなと思うんです。やっぱり話しするときに、同性で話した方が気が楽っていうこともあると思う。それと若い人が介護の方に入ってもらうのはもちろんですけど、同世代の人っていうのは、話すことが何も言わなくてもお互いわかり合えることってあると思う。健康であればそういう同世代の人たちに力を借りて、お互いに見方を少し変えると、先も少し見えてくるのかなと思います。できるだけ社会の中で暮らしていつてほしいなと思うので。認知症は3人に1人はなるって言われてるのでそういうやり方も一つかなって思います。

- 委員長 何か意見はあるか。
- 村中課長 男性が参加できてない、男性の引きこもりのところは課題にはなっておりますので、また考えていきたいなと思います。団塊の世代が今 70 代後半で団塊ジュニアが 50 代半ばに差し掛かりますので、こういった世代からの健康作りというのも私どもとしては課題だなと思うんです。そういう形での捉え方をしておりますのでご意見ありがたいです。
- 南委員 男性は認知症になったら、うつ状態になるみたいである。だからサロンに来れないみたいだ。
- 退室 10:50
- 北島委員 川北がサロンをやっていないのは、やる場所がないからであり、区民館がない。
- 中垣内委員 下番で何年か前からヨガを教えているが、主催者の人が出てきてくれないので困るといっていた。トリムクラブでもよんでもらっているが、やはり引きこもり老人の方がいると聞いている。
- 北浦委員 麻雀には出てくる人もいる。
- 卯目委員 麻雀はいい。子供でもできるし、遊びとしてよい。
- 野沢委員 男女別々っていうのもいいが、いくつになっても男女で語り合うっていうのも元気のもとになる。
- 卯目委員 それができれば一番いいが、それができない現実がある。どうしたらいいかを考える必要がある。
- 野沢委員 出てこないところの理由の深堀りはどうか。
- 中垣内委員 買い物とかは行くけど、老人会や区に出てること自体が強制されている気がするといっていた。
- 関山委員 子どもが集まるところに、じいじ、ばあばがくるような何かができたりしないか。コミュニティーセンターのようなもの。
- 委員長 同意見である。場の重ね合わせをするだけで結構促進するって話で、例えば、買い物する場にコミュニティがあったり、子供が行かなきゃいけない、放課後児童クラブのところにあつたらいいとかそういうような話じゃないかなっていうのは思っていた。実践してるところも実はある。この前、議会でも見に行った輪島のカブーレ。石川では結構、実験的な試みが結構されてて、それぞれがどうせ行かないといけない場を同じにして、そこで緩やかに交流させようみたいなことで成果を上げていたりする。そういう観点が実は結構重要かなっていうのは個人的には思っているんで、そういうのも見に行ったり研究したりするのはいいと思う。
- 関山委員 それに関して、誰でも思いつきそうなのに、実行されてないのはなぜかなと思う。
- 卯目委員 それはやっぱ慣れてないからだと思う。自分からそこへ行って自分から子供たちと触れ合ったり、そういうことが大事なんやろうけど、要は家の中から、そこへどうや

って連れていくかっていうことが一番大事なんじゃないかな。連れて行かされるんでは駄目なので。

北浦委員

近所に奥さんはサロンに来るけどお父さんは来ないっていう人がいて、なんで来ないんかと思って聞くと頑固なんです。何回か言って話しても、俺はあんところに行きたくない、と。自分の人生の中で長年培ってきた何かポリシーみたいなのあるんですかね。だから単純な話ではないです。

委員長

そうかも知れない。

北島委員

民間の制度としてきちっと成り立てばいいけど、一般の例えば児童クラブのところに無作為に年寄りが出てくるといふことになる、親御さんの中には嫌がる人もいる。だから、行政主導でそういう場を作って、お年寄りに集まってもらいたいけど、変な人にうちの子供を触られたくないっていうのがあるので、どうしても心の関係で線が引かれてしまう。それをマッチングさせるのは女性なんやけど、それも相当難しいと思う。

委員長

だからそれをくっつけようとするの大変で、緩やかになんか混ざる場もあるみたいな環境作りが必要ではないか。

野沢委員

さっき言った石川のカブーレとかいうところがあるって言ってたんですけど、逆にそういった問題をどうやって解決してるのかっていうのを聞きたい。

委員長

パブリックスペースが間にあったりする。つまり、その老人施設とこども園それぞれは独立して当然リスク管理がされてる場がある。でも間に、例えば公園があるとか、行き帰りの通学路がそこにあったり、もしくはご飯食べる場所が共通だったりする。つまり1個外に出した状態でそこは誰でも自由意志で行けるけど、お互い共存する結果になるような感じ。図書館もそう。そういう場所をつくるため近くにないとかだめ。だからそれはエリアマネジメントである。

北島委員

見守り隊みたいな感じのボランティアからスタートしていかなあかんのかもわからん。子供に教育は「いかのおすし」みたいなもので。どちらかという、他人と触れさせない教育をしてるので、年寄りの方から近寄っていくことができるっていうのは、そういう見守りボランティアみたいなところから進めていかなあかんのかな。

委員長

そうですね。それは確かに。

南委員

今まさに北島さんが言った見守り隊みたいなのが、くっつけるっていうのがそれだと思う。うちの区では、子供と高齢者を一緒にカレー作りとゲーム大会というので交わったんです。関山さんが言ったどこにギャップがあるかっていうと、高齢者は高齢者、子供は子供っていう、そういう固定観念があるんです。だから、当たり前なだけで、その当たりの発想がみんなできない。僕らはカレーを作りながらお年寄りも子供と一緒に食べて盛り上がった。福祉委員会、それらが核になってお年寄りの声を拾い上げて、子供と一緒に何かやりたいねって区長が間に入って区長から民生委員が

入って子供会に働きかけて繋げようというようなシステムでないと、誰がコーディネーターするかっていう、そこがすごく大事になってくる。

関山委員
委員長

こういうのが実証実験みたいなんでできると面白いなと思う。

1回やってみてどうなるかっていうのを、我々が少し考えて、何か発想できるという。

卯目委員

それもやっぱり家からどうやって出すか、出ていくか、ということがすごく大事ではないかなと思っている。それやると決まった人が集まってくる。でも本当に出てきて欲しい人っていうのは別にいたりする。その人をどうやって出てきてもらえるようにするかっていうことが大事かなと思うんです。黙っていても、来る人は来る。かといってそれが強制になると、北浦さん言ったように嫌ってなる。

委員長

日常で出てくる場所か、得があるところだろうね、そこに重ね合わせてしまえばよい。

北島委員

委員長のところは体育館があるので体育館でバザーして人集めればよい。そこで受けたお金は休校利活用に使えばよい。集まった時にイベントすればよい。

委員長

そういうことしたいんですけど、何がボトルネックかっていうと、上の世代がいいと思っていることがわからない。聞いても教えてくれなかったりしてそこが難しい。だからそこをクリアすればみんなが楽しめるようなものを、そこで重ね合わせたら、いいのができそうだと思う。この辺も深掘りしていきたいなと思いました。では一旦ここまでとします。

今後のことも含めて、議論がいろいろとできて、興味深いことも多いんですけど、やはり毎回途切れがちになってると思うので、少し時間いただいて、やりたいなと思ってるのは、まとめ方です。どう整理していくかという話と何をやったのかが見える化されていかないとだめだと思うので、たたき台ですけど、作ったんで見ていただきたいなと思います。軽く説明させていただきます。まだ案だと思って見ていただきたいですし、ここからさらに付け足したいなと思うこともあるんで、要は1枚全部が繋がっているやつを作ろうかなと思っている。最初は議事録です。人口減少対策特別委員会が2年間で何やったかが、そのまま報告書になってるといいなと思っている。1ページ目は立ち上げと経過、その次は各回の議事録を書いています。各回についてはA4でまとめていって口述筆記していただいていますんで、その内容をもとに議事録を今作ってるというような状態です。あとこのフォーマット等についても何かもっと意見あればいただけたらいいかなと思いますので少し見ていただけるといいんですけど、僕が試行錯誤した感じだとA4でまとめておいて、口述筆記についてもまた公開するぐらいでいいのかなと今思ってます。なるべくこの各回の議事録には、こういうこと言いましたとか、こういうのあります、こうでしたみたいなことを、毎回僕の方で皆さんと共有して、これ足りないとか、足しておいて欲しいみたいなやつを付け足してもらうような形にしようかなと思ってます。フォーマットできたんで、次は多分なる

べく早くみたいな形でやっていけるかなと思います。最初は3回目4回目で、その後一応その人口減少対策についてまとめていくようなものを作っていけるといいかなということで、それがこの4番の人口減少対策レポートってやつですね。6ページですと、ここもまだ綺麗にまとめるのなんて無理なので、例えば我々がこんなパッケージであればやりたいですみたいなのはまだ作ってません。そうではなくて最初に現状と課題とかいうここから情報がいっぱい出てくるやつをどういうふうにまとめようかという観点でやってます。そうするとあわら市の現状と課題っていうのがまず一つ大きなトピックスかなと思っている。2番目が分野別にして、今どんなことが行われてるか、みたいなことをまとめていくといいのかなと思っています。ここに入ってる内容は未来も入ってるんですけど、括弧2のこの分野別対策については、どちらかというただ過去も未来も含めた方がいいんです。今やってることと、今後やることが、もしかしたら両方入っててそれが整理されてるといいかなと今思いました。例えばあわら市で今こんなことしています、移住対策としてこんなことしています、でもこんなこともした方がいいんじゃないですか、というある程度ちゃんとしたやつ、つまり言い方難しいけど提言としてちゃんとしたやつがここには入っていけばいいんじゃないかなと思っています。

野沢委員

何となくでいいんですけど、ゴールみたいなのを共通してもった方がいいんじゃないか。そしてそのゴールに対して今できてることとできてないこと市としてやってもらいたいことみたいなもので、次の段階として、ゴール設計みたいなのを考えたらどうかと思います。

委員長

そういう足りないものを今教えていただきたい。最低限の情報は入ったと思ってるので。その上で例えば今野沢議員おっしゃるようにゴールと時系列、ここは何をしていくのかみたいなものはあってもいいかなと思います。

北島委員

委員長以前おっしゃってた、大学生との連携はどうなってるのか。

委員長

大学に働きかけることについて、福井大学に話をしまして、一応大学院生の子が興味を示してくれています。ただ研究室の話になりデリケートな話なんで、もう少しだけお待ちください。進めてはいます。話を進めますと、それが括弧2番です。括弧3番が分野別じゃなくて入れるべき観点みたいなもので何かあったやつをちょっと書いてます。例えば財政を考えると効率化という目線を入れなあかんとか、コンパクトシティみたいな多世代交流などさっき言った話を入れなあかんみたいな形で整理をしています。括弧4番に関してはアイデアも逃したくないんで完全に話題提供。これも一応分野別と最後その他までつけて、書いてますというような形で今整理をし始めてます。今後この会議で出されたもの、委員会で出されたものをここにさらにどんどん付け足していくというような形でブラッシュアップしながら整理をしようかなと思っています。それに加えて、新たに必要なもの、例えば今言ったようなゴール設定、それも毎回どんどん議論してブラッシュアップすればいいと思う。ゴール設定とか何

月に何をしていきますみたいな話をさらに付け足す。本当はあわら市ってどうなるべきかなみたいな話までたどり着けると、非常にいい。すべて見える化していきたいなと思ってます。だからここに時系列も含めていろんなものが見えるようになっていったもの、いつでも見れますというような状態がいいのかなって個人的には思ってます。現状は3番の議事録までは承認が得られれば公開してもいいのかなと思っております。一旦これはフォーマットということです。前回の議事録が入ってないので、前回のやつも入れて、完成原稿みたいなものを流しますので、数日訂正期間を置かせてもらって、OKであればこの3の議事録部分までに関しては、公開ってことにしようかなと思っております。ただ4も確定的な言い方をしなければ、しゃべった内容しか基本入れてないので、別に駄目なことは特にないんです。ご意見やこういうのを入れた方がいいんじゃないとか、自身の意見が入ってないなみたいなのも多分あるはずなんで、その辺も含めて、見ていただけたらいいかなと思っております。先ほど言っていたいただいた大学との連携とかモデル研修はその他のところ、話題提供の部分には入ってはあるので、それらの進捗状況を見るものとしてもいいかなとは思っています。もう少し話題提供と、それがどうなったみたいなものとか、やりますって言ったことは、どうになりましたかみたいなルールのようなものをもう少し作れるといいです。こういうまとめがどう進んでいくかが結構重要だと思っていて、今回はトピックスが広いので、僕としてはToDoとロードマップと目標みたいなものがあったらいいかなと思ってます。

関山委員
委員長

最終的には、委員会として、政策提言をしていくのか。

政策提言がどこまでできるかは、ここに予算に対する権限はないので、抽象度が高ければいいんだろうと思っていて、例えば具体的にこの政策を是非つけてくださいというようなことは、この委員会としては適当ではないだろうと思っておりますが、皆さんその意識でよろしいですか。

(はい)

委員長

ただ、あわら市が人口減少対策に向かうにあたり、こういう観点で政策をぜひ形成してくださいとか、こういうことを目標にしておいて欲しいですとか、こういう未来を見たいですみたいなことは言うべきであろうと思っている。そのレベルの政策提言というものをまずこの中で作る。できるならば議会にそれを説明させていただいて、皆さんに合意していただいて、議会としてこのようなことをしていただきたい、できるならば検証プロセスも含めて取り組んでいきたい、という思いはあります。個人的にはそれが一つのゴール。議会ですることや行政に対してやることとしてはそれがゴールかもしれない。ただもしかすると民間向けに対しては、我々がPRしてもいいでしょってことで、その政策をパッケージにして、あわら市はこんなんですよとか、議会が移住定住促進しましょうみたいなことだってありだと思っているので、それも民間に対するゴールとしては設定できると思います。もしそれが具体的に考えられて進

むとしたら、こんな議会見たことないので、非常にいいなと思うし、僕はそれぐらいやりたいという思いはあります。できるなら2年ぐらいで一旦それが形になって見えてくると非常にいいなと思ってます。一旦目標、ロードマップ敷きます。

野沢委員

今いろんな分野を一斉に動かしてるのがいいのか、それとも、一つの部分、今回はここやろう、これを完成させようみたいな感じで1個を集中させて、この2年間の中で、まずはこの部分を出していきましようとするのがいいのかっていうのはちょっと考えた方がいいのかなと思います。

委員長

その通りで、まず、全体がないと、重点はわからないなと思ってるので、今これをやってます、全体を把握しましょう。その上で、優先順位みたいなものや今はこれをやった方がいいというのが多分出てくると思う。逆に言うとそういう時間とか、もしくは全体に対するインパクトみたいなもので優先順位っていうのが多分生まれてくるはずで、それを整理するような資料にしていくといいかもしれない。それが出てきたら、多分今はこれ、もしくはできることはこれという実現度みたいなものも含めて評価をしていくと、結果として今は、ここを動かしましょう、ただ全体の把握としてはこうですねっていうようなあり方で進めるかもしれない。まとめ方もそれを意識したものにしていきます。

南委員

全体を出して、例えば教育にしても「優秀な学力データの戦略的活用による教育のまちのブランド化」と書いてあるんですが、全体的こうやって出してこういう未来を見たい、こうして欲しいというだけでは、あまりにも抽象的に過ぎて、駄目かなと思ってたんですが、もっといろいろ出していく中で、一つか二つにもっと集中して、全体でもう少し深めた分野に関して人口減少を少しでも抑止していくようなことを含めて、ある程度いけるようなものを絞ってやるのかなと思っていたんですが、それも今から考えるってことですよね。

委員長

まさにそれで判断していただきたくないなと思ってます。それはあくまで僕が今出してるだけなので、それをもって人口減少対策特別委員会が自分の意図と違うということにはして欲しくないなと思っております。そうではなくて、南議員がしたい形を提案していただきたい。例えば今まさにあの部分の資料が足りないなと思ったら、ぜひ提案していただいてそこを差し替えていただきたい。このフォーマットでいきたいですというようなことをご提案いただけるような進め方をしたいなと思っております。ぜひ自分はこれがいいというものを提出していただいて、それを反映できるような、そんな場であり続けたいなと思ってます。具体に入っていかなダメだと思ってますし、事例研究はいくらでもいい。今行っている放課後児童クラブの知見も具体でレポートにして、オープンにした方がいいと思うんです。ここにレポートが載ってますというような形で整理して行って、それが見れる形で蓄積されていくと非常にいいものができそうな気がするので是非そういうことをしたい。

では一旦この議論についてはここまでとしますが、この資料を編集しやすいやつにして、修正したやつは赤字とかでもいいかなとも思っていますので、やり方考えます。できる限り皆さんにも一緒に編集していただきたい。章立ても含めて、意見言っていたきたいです。個人の意見をどうしても言いたければ、これに付け加えて個人の意見みたいなスペース作ってすればいいと思っています。それをご意見いただきたいと思っています。

今回は、3月19日の午後になります。担当は教育グループでよろしいか。

全委員
委員長

4月の開催日を検討

教育のところで行政ヒアリングを終える。ヒアが残っているのは、産業、企業誘致系が残っている。そこは難しいですか？（難しい）

ヒアは教育までとし、先に進みますか。では次回の教育のところまでで一旦行政ヒアは区切ります。そこから先は何をやるかみたいな話をしないとだめなんです、今せっかく整理が始まっていますので、それに兼ね合わせて、何を目指していくかを少し僕の方でお示しさせてもらおうかなと思う。やらないといけないこと、やりたいことをいただいているので、それも含めて整理をして、優先順位付けるようなことをさせていただこうかなと思います。優先順位表みたいなものを作れたらいいなと思っています。次回の19日までには必ず出しますし、手前でLINE Works か何かに出させていただくので、それも議論していただきたいと思います。そのような形で進めさせていただいてもいいですか。

委員長

ほかになければ、終了する。